

## 事業所における自己評価結果(公表)

公表：平成 31 年 3 月 1 日

事業所名

ぬくもり大曽根

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である。	○		見通しを良くしている。	
	②	職員の配置数は適切である。	○			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達などへの配慮が適切になされている。	○			
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。又、子ども達の活動に合わせた空間になっている。	○		トイレ、おもちゃ等定期的に消毒を行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参画している。	○		月1の全体会議を行って、様々な事例検討をしている。	
	⑥	保護者等向け評価票により、保護者などに対して事業所の評価を実施するとともに、保護者などの意向等を把握し業務改善につなげている。	○		保護者との交流会、面談をしている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している。	○			H31年度から行う。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている。		○		今後検討していく。
適切な支援の提供	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している。	○			
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している。	○			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している。	○			
	⑫	平日、休日、長期休暇にお応じて課題をきめ細やかに設定して支援している。	○			
	⑬	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われている。	○			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている。	○		月1のミーティング。必要な時にはその都度話し合いをしている。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	○		子どもの意見も聞き対応している。		

適切な支援の提供	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している。	○		個々の支援内容に応じて作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日申し送りをしている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い気付いた点などを共有している。	○		当日の打ち合わせではなく、ノートで行っている。	次の日の朝に打ち合わせを行うようにしていきたい。
	⑲	日々の支援に関して記録を取る事を徹底し、支援の検証・改善につなげている。	○			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している。	○			
	㉑	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている。	○			
関係機関や保護者との連携	㉒	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に、その子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している。	○			
	㉓	学校との情報共有(年間行事・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている。	○			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている。	○			
	㉕	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている。	○			保育園に出向き引き継ぎ事項等を話し合う。
	㉖	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修をうけている。	○			
	㉗	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している。	○			相談支援事業所を通じて移行する事業所へ支援情報を伝えている。
	㉘	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害の無い子どもと活動する機会がある。	○			今後長期化休暇中に交流会を開く等検討中。
	㉙	地域自立支援協議会(児童部会)等へ積極的に参加している。	○			今、部会の立ち上げを現在進行中。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	○		送りの時に、保護者に伝えている。	
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている。	○			今後、従業員研修などを経て、前向きに取り組んでいきます。

保護者への説明責任等	③②	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	○			
	③③	放課後等デイサービスガイドラインの「提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された放課後等デイサービス計画を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ている。				
	③④	定期的に、保護者から子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	○			
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催するなどにより、保護者同士の連携を支援している。		○		アンケートを取り今後検討していく。父母の会としてではなく連携していく。
	③⑥	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知するとともに、苦情あった場合に迅速かつ適切に対応している。	○			
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している。	○			
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達の為の配慮をしている。	○			
	④⑩	事業所の行事や地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている。		○		今後検討していく
	非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知している。	○		
④②		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救助その他必要な訓練を行っている。	○			
④③		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している。	○			
④④		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	○			
④⑤		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	○			
④⑥		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている。	○			
④⑦		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画を作成し記載している。		○		今後の個別状況により、保護者の同意のもと個別支援計画に記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。